

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 地域学校協働活動の取組事例

地域ぐるみで子どもたちと学校を支援仕組みづくり（岩手県 洋野町）

取組の概要や経緯

被災地である本町で生活する子どもたちの学習環境の好転・心のケアを図るため、活動を推進するコーディネーターやボランティアの人材確保・育成を推進し、地域全体で学校教育を支援する体制の構築を図ることを目的に実施しているもの。町内全8小学校区中、6小学校区に設置している。



内容

- ①学校支援ボランティアの協力を得て、子どもたちの学力向上につながる読み聞かせ活動や、休日支援活動などを推進する。
- ②学校支援ボランティアの協力を得て、学校行事の準備や運営面などの補助を行う。
- ③学校支援ボランティアの協力を得て、校内環境の整備や登下校時の安全確保のためのパトロールなどを行い、子どもたちの過ごしやすい学校づくり及び地域づくりに努める。



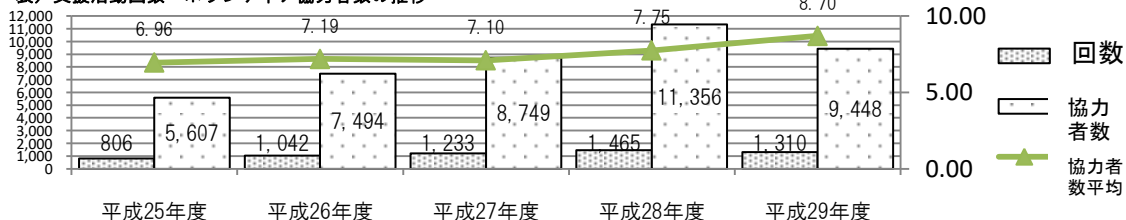
ポイント

震災後は、復興に向けた三陸沿岸道路の整備推進により、特に登下校時の安全確保のためのパトロールや放課後・休日の安全な居場所づくりとして重要な役割を担っている。

成果

学校支援ボランティアの活動回数、協力者数とも年々増加しており、地域全体で学校教育を支援する体制が構築されてきている。本年度は11月末現在で支援活動回数1,310回、協力者数9,448人と、順調に推移している。本事業の実施により、子どもと地域住民が、学びを通してつながり、明るい挨拶や会話をすることが日常的に見られるようになった。子どもたちの社会性やコミュにケーション能力に大きな成長が見られる。

表) 支援活動回数・ボランティア協力者数の推移



今後の方向性

(課題)

復興途上にある本町においては、復興道路等の整備による重機や大型車の往来、他地区からの多数の人の出入りなどがあり、子どもたちの安心、安全な居場所が少ないという現状がある。また、子どもたちの「勉強場所の確保」という目的だけでなく、地域の大人たちとふれ合うことにより、心のケアを進め、将来への希望や安心感を持たせるとの意義も大きく、仮設住宅の解消後も一定期間の安心・安全な居場所を確保する必要がある(今後の取り組み)

支援活動回数を延べ1,000回、ボランティア協力者数を延べ5,000人を毎年継続的に達成することを目標指標とし、事業の普及と定着に努めていく。